

釧路湿原自然再生協議会
第 31 回 再生普及小委員会
議事要旨

日時：平成 30 年 6 月 21 日（木）13:30～15:30
場所：釧路市観光国際交流センター2 階 視聴覚室

1. 開会
2. 議事
 - 1) 再生普及小委員会の活動報告
 - 2) ウェブサイト等による情報発信について
 - 3) その他
3. 閉会

事務局

第 31 回釧路湿原自然再生協議会 再生普及小委員会を開催する。
資料確認。

出席者挨拶

委員長

議事 1 再生普及小委員会の活動報告について事務局より説明をお願いします。

【議事 1. 再生普及小委員会の活動報告】

事務局

資料に基づき内容説明。

- (資料 1-1 再生普及行動計画オフィス取組みについて)
- (資料 1-2 「ワンダグリンド・プロジェクト 2018」応募状況)
- (資料 1-3 再生普及行動計画の実施状況に関する情報発信について)
- (資料 1-4 現場見学会など市民参加イベントの実施予定について)

事務局

資料に基づき内容説明。

- (資料 1-4 現場見学会など市民参加イベントの実施予定について)

委員

フィールドワークショップは再生普及行動計画オフィスでプランを立て、釧路湿原再生事業が成功したところ、再生をしなくても良い自然の状態、生態系の状態が非常に良いところや仕組みを分かっていたきたくて行っている。今後は中心部まで行くためもっとハードになる。

委員

フィールドワークショップは、行動計画ワーキンググループで様々な悩みに突き当たった時、「湿原で考えようじゃないか」という委員の呼びかけで始めた。いつでも誰でも歩ける場所ではなく、普段触れる事のできない湿原の姿や切り口をお伝えすることができて良かった。

委員長

一般市民の方々を含めて「一度思い切って行きましょう」というような事をやってはどうか。新たに参加される方に加わっていただくことで、湿原に対してより新鮮な目で湿原を見ていただけるのではないかな。

委員

シルバーシティときわ台ヒルズで行っているパネル展のオープニングイベントで、ここ5年程、毎年話をしている。その時々話題を取り入れながら湿原や自然の魅力、特に釧路湿原の生態系、生き物、植物などを紹介している。

委員長

若い人達を対象にした視点を持ちがちであるが、何か関心を持つ、学ぶという意欲は、むしろお年寄りの方が強い。委員は雷別ドングリ倶楽部には参加されているか。

委員

参加しており植栽の成果は着実に上がっていると思う。全体の規模からいうと進み具合が少し遅いため活動機会を増やしてほしい。最近定員が25名程度と限定されるため参加者が少ない。

委員

雷別ドングリ倶楽部は1年毎に会員を募集し定員を25名としている。雷別の林道は大型バスが入れないため、中型バスに乗車可能な人員としている。毎年22~23名程度の方の内、新しい方が2~3名ずつで更新している。今年は5月30日水曜日に第1回目の活動を行い、植樹、ツリーシェルターの設置をした。

委員

今月 30 日に釧路エコフェア 2018 というイベントをイオン昭和店のサンコートで行う。全 17 団体が参加し、エコ絵画 93 点、エコ標語 243 点を展示する。

委員

湿原学習のための学校支援ワーキンググループの取り組みは、最終的には学校の先生だけで行ってもらいたいイメージで進めているのか。

委員長

様々な形で小学校、中学校の先生に学年や地域、学校それぞれが持っている課題に応じた支援をすることを考えている。

委員

基本的には先生、学校が湿原での活動をしていただけることを目標にしている。湿原に入ったことがない先生が多いことが、以前より課題として挙げられている。湿原学習のための学校支援ワーキンググループの趣旨は、先生方が自分の言葉で生徒や学生に語れるようになる機会を作ること。事務局は授業の作り方を提案、助言し、場合によってはゲストティーチャーを務めることも含めて、協力してきている。とにかく学校のカリキュラムの中で湿原を活用した学習を実施していただきたいと考えている。活動実績は増加しており、これ以上増えると物理的に対応が困難になるところまできている。いずれは先生自身でできるような体制に比重を置いていく。

委員長

委員は釧路市立博物館に所属されているが、学校から直接見学などに児童を連れて行くような依頼が多いのか。

委員

博物館で案内をしたり学校で話をしたり様々である。我々も人数に限りがあるため、先生方に経験を積んでいただき、サポートする程度であれば有難い。

委員長

授業支援を行っているが、どのように先生達に関心を持ってもらうかが大きな問題である。教育委員会や様々な施設とタイアップし、参加の呼びかけを続けることが必要である。

委員

釧路湿原自然再生普及協議会や小委員会など様々なところで情報の共有がされずに縦割りとなっている。情報の共有をすることにより釧路湿原の将来のあり方や取組み方というものを小・中・高校生、大学生などの若い人達をアイデアソンやハッカソンのような取組みに長期間に渡って参加させることもできる。そういう取組みにならなければ、我々が満足しているだけの一過性のイベントに過ぎない。釧路湿原は全国的にも例が無いほどのデータベースの宝庫である。大きな視点に立ち様々なデータを自由に利用できる大きな仕組みづくりが必要である。

【議事 2. ウェブサイト等による情報発信について】

事務局

資料に基づき内容説明。

(資料 2 協議会からの情報発信について)

委員

資料に示した内容を次回の再生普及小委員会まで取りまとめて掲示するとなると数ヶ月しかない。どのような体勢でプランを作り、検討に私達は参加できるのか。

事務局

今後調整する。整理するに当たりホームページの設置者で集まり検討する。必要がある場合には別途意見をいただく機会を作る。

委員長

実のある結論を出すためには少数でも大人数でも難しい。機動性のある有効な集りの質を考える必要がある。

委員

環境省の担当者が各小委員会ホームページ担当者と検討し、その過程で知見が必要になった場合に専門家から意見をもらう。取りまとめたことを次回の再生普及小委員会にかけたいという理解で良いか。

事務局

大筋ではそうである。環境省も含めてホームページ担当者が集まり、いただいた意見も含めて検討する。予算や今後の見通しなどがあるため、行政の担当者で基本を決めたい。その後、有識者を数名、委員長の意見も聞くようなことを 2 回程行ってから、次回に報告するというスケジュールになる。

事務局

今年度はデータセンターを大幅改正する予算を持ち合わせていない。今後予算が付いた際にすぐに着手できるように全体の整理をしたい。

委員

ホームページの管理者を集めるのも重要だが、全体の設計をどうするかが重要である。誰が利用するのかに視点を置かなければ使い方が曖昧になる。再生普及小委員会には情報系の方が不足しているため失敗する可能性がある。誰がメンテナンスを行うかも重要である。教育からスタートした普及啓蒙に利用することが一番である。

釧路市役所で20年程前に緊急雇用予算で様々なデータ整備をしたはずであり、そういう洗い出しから必要である。

委員長

再生普及小委員会には情報系の方が居ないのは事実であり致命的である。予算の問題、メンテナンスも重要である。

委員

釧路というキーワードで聞こえてくることは、「最近、中国資本が釧路を買い漁っている」ということである。湿原周辺も含めて把握がされているのか常に心配をしていた。

釧路も非常に危険な重点地域とされているが、大きな津波を伴う災害が起こった場合の復旧、復興をどこまで描いているのか。

委員長

本日は具体的に答えられる方はいない。

委員

承知した。

データセンターで蓄積したデータは教育に活かしていくと良い。災害後の復旧、再生の際にはデータの蓄積が非常に大切である。

委員

大変な問題である。様々な小委員会があり、細かい情報があると思うがそこへ行く大きな入り口、項目だけのサイトが一つあったら良い。

委員

普及ということを考えれば市民が入りやすい状況を作るべき。専門的なことを知りたい

方はそこから繰って入っていけるような形が良い。

委員

メンテナンスだけはしっかり考えていただきたい。5年、10年おきに更新する際、誰が行い、予算はどうするかも考えておくべき。今後の更新についても計画的にできるような状況を整えてほしい。

委員

4～5年前に釧路湿原を学習テーマとして考えていた際、インターネットで調べたが、その時には環境教育サイトはまだできていなかった。その時に情報があれば様々な計画が立てられたかもしれない。現在の若い人達はフェイスブックやLINE等のソーシャルメディアを利用している。WEBサイトは見えていない。普及のターゲットや目的を考慮する必要がある。ソーシャルメディアも活用できれば良い。

委員

釧路湿原自然再生協議会のポータルサイトより目的とするデータに辿り着くまでは、日本国内からはもとより海外からのアクセスでも非常に分かりにくいと思う。釧路湿原自然再生協議会のことを知っている私でさえもなかなかデータに辿り着かないことがある。

集約化は必要なことであるとは思いますが難しそう。どういう目的を持ってアクセスしてきているのかを分析しなければ、将来向かうべき方向を決めるのは難しい。とにかく先ず、一つにまとめていくというのも一つの手法だが膨大な作業が必要になりそう。ウェットランドセンターもホームページで情報発信しているが、使いやすい情報発信を目指している。

委員長

情報の専門家が居ない中でWEBサイトを作ることは危険である。情報は次々に蓄積され増える一方になり本当に欲しいデータが隠れてしまう。

委員

委員や担当者は意見を述べるだけで実際にWEBを構築するのは業務として業者が行うのか、それとも委員が行うのか。そこが明確になっていない。予算が取れた時に業務として発注されるのか。

委員

資料20ページの課題③～⑤は「将来こんなふうになったら良いな」というような課題なのか。実際には予算の制約があるため、当面は現在あるホームページで①と②の課題につ

いて整理したいのだということか。作業の過程で将来のバージョンアップを考えた時に、助言をいただけたらありがたいという提案なのか。どの種の意見を求められているのか皆さん混乱している。

委員

良いのか、悪いのか、誰がやるのか、はっきりした目的で整理すべき。スローガンの考えでなく定量的な考え方で対応すべき。

委員

複数の役所が分担して行っている現在の体制を組み合わせることにより、これまでいただいた指摘にどのように応えていけるかを考えた方が良いのではないかと。全体のページを一つ作って運営するのは現実的ではない。

資料 21 ページの「WEB サイト間の機能分担の整理（イメージ）」に①～⑩までに挙げたような機能がホームページとして必要であり、現状では各事業実施官庁が管理している。各WEBサイトで分担すると、このような大まかな整理の仕方、役割分担が考えられるのではないかと。この表に挙げた発信すべき情報はこれだけで良いのかも分からない。現在ある5種類10個のWEBサイトを組み合わせて、今後必要だと思われる部分をどのように分担すれば良いかを整理するためのものである。重複して複数のサイトに違った形で掲載されている部分があり、作業を行う上で無駄である。しかし、どこのサイトで情報を取り扱うべきかと考える際には、役割分担を整理することで現在のサイトで活かす部分、削除する部分の話ができると思い用意した。

委員長

釧路湿原自然再生協議会がスタートした時点の考え方として、行政と活動団体、一般市民が集まって一緒に作業等をするイメージがある。しかし、現状では各小委員会を担当している行政がホームページを作っている。

委員

前回の会議でも申し上げたが、一番重要な問題はデータセンターの情報に間違いがあること。正しい情報が書かれているというのが前提であり、特に行政が作っているホームページの情報は正しいだろうという先入観がある。データセンターで一般の皆さんが検索する内容を審議して直すべきである。サイトを担当しているのは環境省であり、各省庁が話し合う必要もなく、環境省で直してもらえば良い。

委員

現在、3つのことが一緒に議論されている。1つ目は、重複しているホームページの整理。

2つ目は、ホームページを更新する際に必要な配慮。3つ目は、ホームページの情報の誤り。
3つの課題について議論の優先順位を整理すべき。

委員

フローを作った方が良い。いつ誰がやるのか、どうやるのか、皆さん分かりづらい。

委員

3つの課題を一度に議論するのは難しい。

委員

次回の再生普及小委員会までに課題の整理を行い、そこで機能分担を整理して事務局に提案していただきたい。現在の予算や物量からも整理できると思う。

また、ホームページでの記述に誤り、訂正すべき事項への対応は緊急に行うべき。

そして、誰をターゲットにするかというようなホームページの内容検討は、今後順次行っていくべき。

事務局

掲載事項の誤りは環境省ホームページとしても良くないため、持ち帰りの課題とさせていただきます。

事務局

緊急に訂正すべき誤りと時間の経過により修正が必要なものを仕分ける必要がある。職員の手作業では行えないため、なるべく早く行うとしか言えない。

委員長

議論に情報系の方を入れる場合、具体的にどうしたら良いか。また、データのメンテナンスに関する予算が無い場合の対処はどうすべきか意見を聞きたい。

委員

経済産業省の事業で釧路市が地域 IOT 推進事業を行っている。そこに参加されている方をお願いすることはできないか。メンテナンスを考えると地元釧路の方が良いが、私が知っているのは1、2社程度である。既存でこれだけのホームページを管理していると数百万がかかっていると思うが、その予算を釧路湿原再生協議会、小委員会に回してもらい、委託して運用管理をしてもらうことはできないか。最近の若い人はほとんどがソーシャルメディアを利用している。利用のことは情報系の方が分かっているので、意見を聞くのも良い。北海道庁のホームページでは札幌市もバナー広告が出てくが、そういうこともできな

いか。

委員

「皆さんが知りたい事実について正確なことはここで分かるよ」というような形の WEB サイトが良い。様々な役所や機構が WEB サイトを立ち上げ、各々の方が予算を取って運営しているため重複があっても良い。各役所、機構の考えや切り口があり、環境省と河川事務所では自然再生に対する姿勢も違う。各々の方々にアップデートをしてリンクをたくさん付けていただき、キーワードを入れると自分が欲しい情報に辿り着きやすくなる。メンテナンスは各々の WEB サイト設置者の責任に於いて、内容をより正確にアップデートしていただきたい。

委員

ホームページを整理してどこかにまとめようという努力自体が、インターネットを利用しない情報整理のアプローチのように感じる。予算や物理的なこともある。次回の再生普及小委員会までに、既存のものを整理して必要に応じて委員の方から意見を聞き、たたき台を出してほしい。その過程で「本来こういうこともできたら嬉しいな」というような委員の皆さんから出た意見については、追々検討していくという姿勢で臨んだらいかがか。

委員

事務局にたたき台を作っていただき検討した方が良い。

委員

誰の為にこれが必要なのか、どんな人がどんな情報を知りたいのかというところに視点を置いて、事務局に一任するというのが一番無難な方法ではないか。

委員

資料 21 ページにイメージと書かれているが課題を整理しただけのものでありイメージが湧かない。具体的なイメージを画像等で表してほしい。

委員

資料 17～18 ページ「WEB による情報発信の状況」に記載があるが、実際にサイトを持っている建設管理部や産業振興部は、このような議論が出ていることを多分知らない。そのため、担当者間での話し合いは必要である。また、SNS を活用した情報発信の取組みなども良い。

委員

釧路湿原森林ふれあい推進センターのホームページは職員が更新しているため、今後内容の整理ができるか検討したい。

事務局

環境省データセンターの話であり、SNS を含むことを想定していない。若い子は SNS を利用するという話になれば、ホームページを整理する意味はあるのか。様々なメディアが今後出てくることを想定すると、予算を使ってホームページを更新する必要があるのか。

委員長

時代に遅れているからホームページはもう要らないというようなことには絶対にならない。SNS のことをどの程度考えるのかということ。

委員

資料 20 ページの課題①～⑥の内、対応策が書かれているのは①のみである。②～⑥までの対応策を出す必要があり、どのような順番で行っていくのかを考えなければいけない。

また、データの修正は間違いが分かればすぐに直すべきである。誤りを伝えるルール、発信方法を明確にするとよい。そして各ホームページの管理者が、いつのタイミングで直すかは管理者にらせていただくしかない。

委員長

予定の 2 つの議事を終了する。

事務局

第 31 回再生普及小委員会を終了する。

(閉会)